

行田税務署管内納税貯蓄組合連合会長賞 銅賞

この教科書は、だれがくれたの？

加須市立加須東中学校

二年 香庭 結夢

新学年になると、私たちの机の上には新しい教科書が並びます。きれいな表紙、パリッとした紙の手ざわり、まだ何も書き込まれていない真っさらなページ。それを手に取ると、「今年はどうなことを学ぶのかな」と少しわくわくする気持ちになります。でも、当たり前のようにもらっているこの教科書が、実は税金で支えられていることを、私は最近知りました。

日本では、小学生から中学生までの義務教育で使う教科書は、すべて無料で配られます。「義務教育は無償」と決められているからです。けれども、「無償」と聞くと、まるでお金がかかっていないように感じてしまいがちです。しかし、実際には教科書を作るために多くのお金が使われています。

教科書は、専門の編集者や先生たちが内容を考え、イラストや写真、図表などをわかりやすく載せてつくられます。それを印刷会社が紙に印刷し、学校ごとに届けられます。たとえば中学校の数学の教科書一冊だけでも、五百円から七百円ほどの費用がかかっています。一年で十冊以上の教科書を使うとすれば、生徒一人あたり何千円分もの教科書が配られていることになります。これが全国の中学生全員分となる

と、何十億円という大きなお金になります。その費用のほとんどは、国民から集められた「税金」によって支えられています。

私はこのことを知ったとき、「税金ってすごい」と思いました。これまで私は、税金は大人が払うもの、自分にはまだ関係ないものだと思っていました。でも実際には、税金は今の自分の生活のすぐそばにあって、私の学びを支えてくれたのです。

もし税金がなかったら、教科書は自分で買わなければならないかもしれません。家庭の経済状況によって、必要な教科書が手に入らない人も出てくるかもしれません。それでは、平等に教育を受けることができません。

教科書は、私たちが知識を身につけ、将来の夢を実現するための第一歩です。その大切な「学びの道具」を、すべての子どもたちに無料で届けてくれている税金は、ただのお金ではなく、未来への応援だと思っています。

私はこれから、教科書をもっと大切に扱いたいと思います。そして、そこに書かれたことをしっかりと学びたいと思います。それは、私たちの教育を支えてくれている多くの人たちへの感謝の気持ちでもあります。

そしていつか大人になったとき、私も税金を納める側になります。そのとき、自分が払ったお金が誰かの教科書となって届いていくのだと思うと、不思議だけれど、少しうれしい気持ちになります。そうやって学びがつながっていく社会を、これからも大切にしていきたいと思いました。